

豊島高等学校2019年度EPO、コンクール上演作品

2019年度大阪府大会出場搜索脚本および近畿創作脚本賞大阪府推薦作品

『ヒーローズ・オーバータイム』

台本 春次未希

(登場人物)

A 滝川アカリ…元生徒会長 自慢は無遅刻無欠席

B 寺嶋エリカ…親に弱い 頭が悪い 陽キャ

C 遠山シズカ…Bと幼馴染

D 津軽マリーアントワネット…あほ 学校に来ていない イノシシを追う

レッド…前は元氣・責任感の塊 ↓今は四十肩 引きこもり

グリーン…メガネ 優しい マイペース ↓プラス老眼

ピンク…めっちゃモテる おとなしい ↓スナックママ レッドとグリーンに立ち直って欲しい

校長(イエロー)…カレー好き ムードメーカー ↓カレイス女学院 校長 暖かい目で見守るタイプ

父(元悪役)…↓ふわふわ系パパ

母(ブルー)…↓教育ママ

イノシシキバオ(司会者など)

子分^②…今はピザ屋勤務

子分^③…今はすし屋勤務 子分感満載

氷山先生…生徒指導 厳しいけど愛のある先生

シーン

私立カレライス女学院の一室。JKが会議をしている

A「第一回カレライス女学院の周年記念祭アイデア考えだそうの回ははじめマアース！

(……反応なし……)

だぁー……！！全然あかんやん！みんなまじめに考えて！？」

C「そんなこといわれてもやぁ……」

B「ていうかそもそもこのメンツでいい案なんか浮かぶわけないやん……」

A「あたしじゃ役不足ってこと！？」

B「いや、あんただけに言ったんじゃないって、だって周り見てみ？右から暇人、補習組、一つ飛ばしてあんたは内申目当ての元生徒会長！こんなじゃ碌なもの作られへんわ！だいたい！あんたらと初めてしゃべったし！馴れ馴れしすぎや！」

A C「あかん耳が痛い……」

D「なんで飛ばすのん！」

Dは紹介を飛ばされ、睨むがB気付かず

B「ていうかそもそも題材があかんわ！何！？私立カレライス女学院56年記念、や！なんで56年やねん！ルフィか！(ゴム)か！キリ悪すぎやろ！なんで去年やらんかってん！あのカレライスじい！ほんまにいい！！あほおお！！！」

遠巻きに見守るAとB

A「なあ、あの校長に恨みでもあるん？」

B「てか！！なんでこんなことせなあかんくなってるの！？」

A「それはあれやん！

時間が戻る…早戻し

(少し前の朝礼。「校長からのお話」)

校長「…ごほん！えー学生諸君！今年は我がカレイス女学院創立の周年です！！そのため周年祭を盛り上げるプロジェクトメンバーを募集します！！参加してくれる生徒には僕が真心込めて作る特製カレーをプレゼントしまーす！これは×JAPANESEフーポートフォトリオにもとても有効やと思うから、興味のある生徒は生徒指導のゴリ山…おっほん！冰山先生か、校長室に来るように！！！！以上！おつかれー！！」

時間が戻る。早回し。

A 「……ってわけやん！」

C 「校長絶対ゴリ山って言うてたよなあ」

B 「なあんか上手いこと載せられてる気がするわあ」

D 「てか怒りすぎやろ！カルシウム取れ！デコッパチ！！」

B 「ああ？だまれあほ！！」

D 「なんやと！それでもTOEIC87点やねんぞ！うやまえ！！」

(TOEICは100点満点ではない…)

ストップモーション イノシシがフリップを持って通る。去ると変な雰囲気

D 「え、なにこの空気…」

B 「きつしよい！擦り寄るな！変態！」

D 「変態言わんといて！わたしにはちゃんと、津軽って言う名前があんねん！ガミガミガール！」

B 「誰がガミガミガールや！ちよつと語感いいのん腹立つわあ！私にもちゃんとエリカいう名前があんの！！擦り寄ってくるんやったら左じゃなくて右にして！！」

A 「そこ！？」

C 「エリちゃんその子とはじめてしゃべったん？」

B 「おん

A 「そんなんですよあんだだけ話せたな…」

B 「ついでに言うにあんたの名前も知らん」

A 「うそでしょ！？私生徒会長やってたんよ！？それも3期！！」

B D 「しらん」

A、自己紹介を始める。

A 「…おっほん！わたくし滝川あかりと申します。」

D 「よっ！クリステル！結婚おめでとう！」

B 「やめい！」

A 「皆様ご存知の通り生徒会長を3期に渡り務め、× JAPANフーポートフオトリオのポイントもと！て！も！高いのですが、この場にいますのは、× JAPANフーポートフオトリオのポイントを確固たるものにするためでございます。まあそんなあたくしの自慢といたしましては生まれてこの方無遅刻無欠席でございますーはい…無遅刻無欠席でございますう…（誰も聞いていない）聞けえ！！！」

B 「あ、ごめーん

C 「わざとじゃないねーん

D 「ごめん、飛ばしたら鼻くそついた

A 「いやっ！きつたな！（払う）

D 「そんなことないよお！きれいよお！

A 「はあー？？」

D 「ひいひいー？？」

A 「ふううううー？？」

D 「へええええー？？」

A 「早よとれや！！！」

D 「乗ってたやん！！！！」

A とD のバトルを止めるようにC が自己紹介。

C 「遠山シズカです！乙女座です！エリカとは幼馴染です！好きな食べ物はくさやです！えっと、このプロジェクトに、参加したのは…（遠慮がちに）X JAPANフーポートフオトリオで内申点が欲しくて…以上です。」

D 「あたし？あたしはー！出席点がねえ足りなくて、校長に連れてこられた！！まあ畑荒らしてもうたから言うこと聞かなあかんかって…エリカは？」

B 「さっそく呼び捨てかよ…」

D 「いいやんかあ！私らの仲やろ！」

B 「…エリカは…」

D 「自分のことエリカやってー！！（デイスるがAに無視される）無視られた！ひどい！津軽泣いちゃう！！ふえーん！！

D 泣き続ける

B 「…寺嶋エリカ。A型。獅子座。志望校行くには少し点が足りなさそうでした。

D しつこく泣いている

B 「…ていうか津軽、下の名前は？

D 「マリーアントワネット！」

B 「笑）嘘やん…」

D 「うそぢやうよー私のおかんベルサイユのばら大好きやねん！あーあ、だから言いたくなかったのにい」

C 「その…名前が、いやで学校来てへんのん？

D 「違う違う！関係ない関係ない！説明めんどいから言わんかっただけ！

A 「え、じゃあなんで、学校きてへんの？？」

D 「うちな、イノシシ探してんねん！」

みんな、「？」となる

B 「…ごめん、もっかい言って」

C 「…うんうちも…」

A 「なにさがしてるって？」

D 「イノシシ」

三人集まる

A 「おかしいなあ…うちイノシシにしかきこえへんねんけど」

B 「うちも…」

C 「もっかい聞く？」

D 「いや、だからイノシシ！」

A B C「うわっ！

D「もう！なに！

C「…そんなこのへんにおるん？…？」

D「おう、この学校には伝説の人面イノシシがおんねんで」

B「…ほんまにおるん？」

D「おる！！うちは信じてる！てかおらんと困る！」

A「困る言われてもなあ…」

B「自分高校からこっちやる？まさかと思うけど、イノシシ目的で入学したん？」

D「探検活動やん！探検活動！！」

B「何してん…」

D「X JAPAN フォートフォトリオの！！」

B「もう、X JAPAN フォートフォトリオって全然わからへん！」

C「アカリ教えてくれへん？」

A「え？！」

C「え？」

D「え？」

B「え？って何？」

A「ええつくすジャパンフォートフォリオおあって言うのはあ…」

B「っていうのは？」

A「エックスジャパンフォートフォリオ…X JAPAN…！」

J K 4人「X！！」

生徒指導の冰山先生が入ってくる。

冰山「あんたら、ちゃんとやってんのん！？」

B「げ！」

D「冰山センセー…！！X JAPAN フォートフォトリオ？ってなんなんですかあ…！」

冰山「はー？！X JAPAN フォートフォトリオのことはあんたらが1年の時から進路ホームルームで何回も説明してたでしょう！？…あんたら聞いてなかったん？」

A「私はちゃんと聞いてましたあ」

冰山「ほら滝川さんそういうてるでしょう！あなたたち聞いてなかったんですか！？」

B「絶対友達と喋ってたわ」

D「うちはイノシシ探索」

C「多分その時課題やってました」

冰山「はあもう全然聞いてないやないか！！聞いているの滝川さんだけや！！滝川を見習い！」

A「まあ！生徒会長ですからね！元！！」

D「冰山センセェ！！私にも理解できるよう、猿でもわかる！みたいな感じで説明してくださいよお！」

冰山「もう！特別ですよ！！」× JAPAN フォトリオっていうのは、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するために…」

B「学力の3要素ってなにー？」

D「あほやなあ友情、努力、正義やん！」

冰山「違います！要は高校生活で何を頑張ったかをデータ化して、大学受験の時に進路先に提出するものや！！まあ、『自分で付けていく内申書』みたいなもんやね。

D「なんや、えらい簡単なことやん！先生さっすがあ！！」

B「ゴリ山説明上手いやん！」

冰山「誰がゴリ山ですか！！（怒）」

冰山の怒りを鎮めようと謝るB

B「すみません冰山先生！つい癖で…」

冰山「寺嶋さん明日居残り！！」

B「えー！！勘弁してくださいよ！！」

C「そーですよー！！私ら今忙しいんすよー！！」

冰山「おだまり！忙しいも何も関係ないです！やらかしたんやったらきちんと責任を…」

校内放送が鳴る

校長「ピンポンパンポーン、ゴリ山先生、ゴリ山先生名簿の紙どこでしたっけ？大至急校長室をお願いします。あ！待って違う冰山先生！！ピンポンパンポーン」

怒りの冰山先生

D 「校長もゴリ山言うてるやん！

B 「しっ！先生ほら、校長呼んでますよ！！

氷山 「…今日のところは見逃してあげますけど、次はないですからね！！

B 「はい…

氷山 「あ！それと…

B 「はい！！

氷山 「このプロジェクトの担当校長先生やけど、困ったことあったらいつでも言ってください！あ！あとこれ差し入れ！！」

差し入れの袋を渡し、氷山去る

B 「（見送って）ゴリ山先生、怖いけどええ先生よなあ

C 「うん

D 「なあ、差し入れて何？

B 「開けてみて）**っ！**バナナや…

C 「さすがゴリ山先生…

B 「てゆうかアカリ、× JAPAN フォートフォトリオわかってないんちゃうん！？」

A 「いや、わかってるから！ほら行事の後にアプリに書き込まなあかんやつあるやろ？あれをポイント化するねん！

B 「ああー！

C 「楽しかったものは何ですか？楽しくなかったものは何ですか？校長の当日の髪型はどうでしたか？ってやつやろ？

A 「それは生徒会のアンケートや！！！！

B 「もお、全然わからへん…

A 「これやこれ！もろたやろ？

A がプリント出す

C 「べのっせ？（ベ○ッセのは「c r a s s i クラッシー」です）

B 「初見やわ、なんなんこれ？

A 「これこれ（プリントを指さす）

C 「学校行事、部活動、探究活動…

- B 「え、津軽の探検活動ってまさかこれ！？」
A 「しかも探究やしな…」
D 「うん！イノシシ見つけたらポイント貯まるって言われて！」
C 「だれに？！」
D 「校長！！！！！」
C 「何考えてるんやろあの校長…」
A 「てかこいつ騙されすぎやろ…」
B 「ネジ5、6本抜けてんちゃうか」
D 「え！どーいう意味！？」

ちつとも話がすすまないので、A割って入る

- A 「はいはいはい！続き！やるよ！！津軽う？よみたいやろお？」
D 「え！いいの！？読むー！！！！（喜んでプリントを受け取る）」
B 「アホすぎん？」
C 「ええやん犬みたいでかわいいやん」
A 「シズカが一番ひどいな…」
D 「ごほん！（プリントを読む）『X JAPAN フォトリオは学力の三要素①知識・技能②思考力③主体性を多面的に評価するために活用されるサービスで学
校行事、部活動、生徒会や委員会、探究活動、表彰や顕彰、留学や海外経験、学校以外の活動、資格や検定をデータ化して日々の取り組みをアプリに書きこんで数
値化していく』」
B 「『その数値と大学のアドミッションポリシーを比較してマッチングするところを探す』…」
C 「マッチングてなあ…」
B 「婚活アプリかよ」
A 「まじそれな」

婚活アプリ風CMもどき

- C （生徒）「部活動がんばってます！」
D （大学）「部活動に力を入れてます！」

- C (生徒) 「英語をがんばってきました！」
- D (大学) 「英語教育に力を入れてます！」
- C (生徒) 「〇年間まじめに勉強してきました！」
- D (大学) 「誠意を持って取り組める人に来て欲しいです！」
- C D 『はっ！！これが…恋？ (マツチング♡はあと)

エリカが割って入る

B 「なるかぁ！！！」

D 「ならんかぁ

C 「ならんかぁ

A 「読んでる時なんとも思わなかったけど、だいぶやばいな…

B 「やばすぎや！誰が考えてん！絶対考えたやつ婚活アプリ使ってたんで！マツチングう！！」

C 「エリちゃん！なにやってんの！！」

B 「ごめん！きいつける！

C 「もう！

D 「あーあ怒られたあ！w」

B 「津軽しっー！！み、みんなさ、ポイントどんぐらいあるん？」

A 「いっぱい♡ハート♡」

B 「うわ、はらたつう」

D 「(きつぱりと) ない！」

B 「それはやばい…シズカは？」

C 「あたしなあ…全然ポイントないねん、」

B 「え、でもシズカってボランティアとか色々やってるくない？」

C 「うん、でもポイントめっちゃ低いねん…」

A 「そんなん嘘書いときやええねん！あたし盛りまくってるで？」

B 「まじかよ…、え、ボランティアとかは？『あんま働かれへんかったなあ』ってときどーしてるん？」

A 「満点や」！

C 「なんもしてない日は？」

A 「満点や!!」

B 「まじかよ!!!やばすぎやろ!」

A 「そんなんいうても、確かめようがないねんから、嘘書いててもばれへんわ!」

C 「私、毎回正直にポイントつけてたのに…」

D 「ガバッガバやなこのシステム…、頑張ってる人がちゃんと評価されへんってどーやと思うわ!それにみてこれ!（プリントの『先生の評価』を読む）『〇〇さんはこの前の大会にも出場していたんだな。部活に関する記録が多い。すごいなあ。』」

B 「きつしょ!!!ストーカーやん!」

D 「まだあるで、『光ってる実績を見つけることができる』」

A 「光ってるって…何様やねん!」

B 「しかもこれってさ、嘘書いてもばれへんやんか、てか書いてるやつおるし…ほんでデータ流出したらえらいことなるやろ?仮想通貨ですら流出してんのにほんまに大丈夫なんかなあ…」

A 「でもこれ見ると、ほんまにうちらのことデータでしか見る気がないねんなあ」

D 「うちのやつてることも、大人からみたら所詮はデータでしかないんかなあ…」

間

C 「…これさあ、データ化されへん部分ってどーなるん?」

B 「どーゆーこと?」

C 「家庭の事情でバイトしてる子とかさ、めっちゃ頑張ってるのにポイントにはならへんやん、他の人がボランティアとかしてるときに家のために働いてんねやろ?」

B 「ほんまやね、」

D 「『友情・努力・正義』ってどこではかるん!?一番大事なことやんか!!!」

A B C 「うん…」

下校放送が鳴る

校長 「ピンポンパンポーン、4時半やでえー!生徒の皆さん、そろそろ帰りましょーねえー!!!今日の放送は校長でしたあ!!!」

がちゃ!

氷山「校長先生！！！ゴリ山ってなんなんですかあ！！！！」
校長「ぎゃああ！！」

ピーーーーー

A「校長捕まっちゃったなあ…
C「逃げられへんかったんか…
D「校長先生の名誉をたたえて、黙祷。

ぼんぼんぼんちーん（全員黙祷）

暗転

（転換1→2）

校長と氷山がやってくる

校長「あ！ゴリ…氷山先生！」

氷山「…なんですか？」

校長「生徒たちどうです？ほら55周年記念祭の」

氷山「ああ、ちゃんと考えてやってるみたいですよ、X JAPANフーポートフオトリオのポイントにもなりますしね」

校長「そうですね」

氷山「でも校長X JAPANフーポートフオトリオあんまりよろしく思っていないですよね？」

校長「まあ、僕は人と人はやっぱり直接話さないとデータ上じゃわかること少ないと思うんですよえ

氷山「まあ、そうですねえ

校長「55周年の取り組みはあの子らなりに頑張ってもらいたいです」

氷山「そうですねえ」

校長「X JAPANフーポートフオトリオとか英語外部入試とか、大学入試改革は大分問題が……

（ハッと気づいて）だめだ！こんなこと話してたら文文科科省の回し者に捕まる！！

周りを見渡す二人

氷山「で！では！これで

校長「はい！よろしくお願いしますね！

様子をうかがいながら校長と氷山去る

シーン2

Bの家。母が待ちうけているところへ帰宅するB。

母「おかえり

B「…ただいま

母「門限ギリギリやん、何してたん？

B「連絡したやん、シズカとナタデココ食べてたって！

母「こんな遅くまでよその子連れまわして！

B「5時は遅ないやろ！！！！

母「エリカ、『なんとかポートフォリオ』、ちゃんとやってんの？」

B「やってるって」

母「ボランティア、土日やらんとアカンのじゃないん？」

B「分かってるって、明日から88周年記念祭の準備で遅くなるから！」

母「ちよつとエリカ！」

B「もう寝る！！」

B、母を振り切って自分の部屋へ行く

シーン3

カレライス女学院の一室。JKの会議

C 「あるんだ…」

【特集番組】

曲が流れる↓6:00だよ！全員集合！！

司会者が出てくる(昭和の番組わからんけど、「8時だよ！全員集合！」とか「ザ・ベストテン」とかの有名どころがいい)

司会 「おいつすー！

みんな「おいつすー

司会 「みんな元気かああ？？本日は最近とても話題になっている蛍光戦隊の方々に密着取材してきました！！それではどうぞー！

蛍光戦隊でてくる(からの主題歌ダンス)

踊り終わってでインタビューー

司会 「なぜヒーローを志したんですか？

レッド「人の役に立ちたかったんです！地元みんなの手助けができたらなあと思って！

司会 「結成からそれほど時間は経っていませんが、すでにとっても愛されているんですね。

レッド「はい！みんな応援してくれてとても嬉しいです！

司会 「本日は蛍光戦隊の方々に密着取材してきました！8時だよ全員集合これにてドロソ！歯あ磨けよ！風呂入れよー！また来週！

番組 (Youtube) 終わり、司会去る。

B 「なにこれ…」

A 「蛍光戦隊昭和ンジャー、昔めっちゃ人気やってん！」

D 「かつこいいなあー！」

A 「せやろー！！レッドがなヒーローやねんけどな！めっちゃメンバーとか一般人に優しくくてな…」

B 「じゃなくて！！これどーすんの！？」

A 「ヒーローにな、記念祭手伝ってもらったらって…」

B 「は！？」

A 「嫌ならしいけど…」

D 「めっちゃおもしろいじゃん!!」

A 「(喜んで) つしや……!!」

B 「でもさあヒーローに出演してもらってうちらが出えへんかったらあかんのじゃないん?」

C 「フーポートフォリオのポイントどうなるん?」

A 「ええねん!! 中途半端にうちらがやるより、周年祭にとってより良いものを提供するほうが大事や!!」

D 「なるほどな!!」

C 「めっちゃまじめに考えてるじゃん!!」

D 「ほんまに! どのかのデッコパチとはえらい違いやなあ…」

B 「…おい!!」

D 「ごめんやんww」

C 「もおお! 話すすまんやんか! でどこにおるんそのヒーロー」

B 「そんな簡単にわかるわけないじゃん! プライバシー重視のこの時代にー!」

A 「(資料を確認して) 三軒先やな」

転ける

B 「なんでやねん!」

A 「昔の新聞に載ってた」

C 「個人情報保護条例できる前ってこっわ!」

B 「てかお前、この企画のためっていうか、会いにいく口実欲しいだけやろ!」

A 「…ばれた?」

B 「ばれた? ちやうわ!」ww

C 「なんかアカリちゃんお堅い感じなんかとおもったけどめっちゃおもしろいなあww」

D 「ほんまに! めっちゃいい子じゃん!」

A 「え、照れる…ありがとう」

A 照れ続ける

D 「おつしや！早速いこか！！」

B 「もお！ちんたらしてたら行かへんで！」

A 「行きます行きます！行かせてください！！」

J K たち昭和ンジャーに会いに出ていく

転換3→4

昭和ンジャーの所へむかう途中、田舎道

A D C B 順に下手から出てくる

C 「ほんまにこっちであってんの」

B 「㊿軒先やったんちゃうん！？」

A 「ここ田舎やで！㊿軒先なめとったらあかんわ」

D 「何かを見つけて」カエルやあああ！！！！（追いかけて退場）

A 「津軽！！どこ行くのーん！！」

B 「そんなん言うても戻ってこーへんわ、イノシシやー！！」

間

D 戻ってくる

D 「え！どこ！！」

A 「ほんまに戻ってきた…」

C 「はーい、ゆっくり歩こうねえ」

シーン4 元ヒーローのアジト（ピンクの経営するスナック）

花道にイノシシが現れる 司会者に似ている

イノシシ 「てなわけであの人は今なヒーローたちを探しに行くことになった」司一同、そんな簡単に見つかるかなあ？」

ピンポーン

A (声のみ)「ごめんくださいーい！」
イノシシ「見つかったよぉ」

イノシシ去る

B「反応ないで」

A「おらんのんちゃう？」

D「なんか聞こえるで、」

ガチャ

D「あ、開いた」

B「いこ！」

C「う、うん」

A「え！勝手に入ったら刑法188条住居侵入罪で懲役3年以下または10万円以下の罰金が科せられるで！！」

B「いいよ、じゃあそこおりーや！」

A「…待ってよ！行くう！」

JKたち、ピンクのスナックに侵入する

A「お邪魔してまーす…」

B「暗いなあ」

C「電気つけよ…あった、」

電気つく。ピンクが一人座っている。

ピンク「【めっちゃ英語でキレてる】」

JKたちとお互い目が合う

全員『ぎゃああああ！！！？？』

暗転後全員正座

A「すみません勝手に入って…」

ピンク「いや、こっちこそ、ごめんね」

A「あのお、昭和ンジャーのピンクさんですよね！」

ピンク「あうん」

C「なにしてはったんですか？」

ピンク「競馬…聞いててん」

B「ああ…」

A C D「競馬あ…」

ピンク「えーつと…？」

A「あ！滝川アカリです。」

B「寺嶋エリカです。」

C「遠山シズカです。」

D「津軽マリーアントワネットです。」

ピンク「Marie Antoinette…？」

D「YES-」

ピンク「【英語（あたしのお母さんと同じ名前！）】」

D「は！？」

ピンク「あたしのお母さんと同じ名前！」

D「ああ…」

A「…ピンクさんハーフ説正しかったんですね」

ピンク「うん…あ！あなたもハーフ？」

D「そーです！！」

C「え、そーなん！？」

D 「おん、男と女のハーフ！」

B 「もうあんた黙ってて！」

ピンク 「あの…」

C 「あ！ごめんなさい！」

ピンク 「えっと、わたしたちに会いにきたの…よね？」

B 「そうです！えっと、ピンクさんだけですか？」

ピンク 「あー…おるにはおるねんけど…もう出てきいや！」

ここそしていたレッドとグリーン、見つかるレッドとグリーン、ピンクに引っ張り出される。
すっかりおばさんになっている。

レッド 「うわっ！」

A 「え！？」

ピンク 「はい！座って！！！」

C 「ずっとそんなとおったんですか！？」

D 『『ダイワハウス』や…』

B 「どゆこと？」

D (CM) 『うそだ…オレは今嘘をついている…本当は低くて狭いところが大好きなんだでも俺にはもはや家族がいる…』

C 『私は知っている…あなたは本当は天井が低くてせまーいところが大好きなんだってことを…私は知っている…』

D 『『天井高7メートル0センチ、だから広く感じるそのホールは箕面市立メイプルホール！！』』

ピンクが手を鳴らす、照明切り替わる。

ピンク 「はい！す！わ！る！！」

C 「えっと、レッドさんと、グリーンさん？」

グリーン 「そーですう！」

レッド 「御歳42歳のばあずですー！！」

A 「えー…？」

C 『『突如現れたデリバリーモーターズと戦う正義のヒーロー、その名も蛍光戦隊昭和ンジャー！』…じゃないんですか？！』

B「なんで表舞台からいなくなっただんですか!？」

A「いやあの人は今!？みたいな言い方するなよ…失礼じゃないか!」

ピンク「…バブルが弾けたとき、私たちが戦っていたデリバリーモーターズも資金調達がうまくいかなかったらしくて解散して…」

C「シビアやなあ…」

レッド「もうあたしらのんびりやってんねんからほつといて!」

B「創立56年記念祭に一役買ってくださいよ!」

A「あゝあ!！伝説のアイツらが帰ってくる!？みたいな!」

B「いけるいける!」

レッド「むりやわ!あれから何年たつてるとおもってんの!メンバーもばばあになつてゐるし!」

A「そんなことないですって!」

レッド「それに私たちみたいな **ひきこもり**は…うじうじうじ…」

グリーン「そうそう定職にも付いてないし…うじうじうじ…」

B「え、くらっ!」

レッド「…もうええ論より証拠や!蛍光戦隊集合!」

主題歌ダンスを踊るがよぼよぼ

レッド「五十肩レッド」

ピンク「腰痛ピンク」

グリーン「老眼グリーン」

レッド「グリーン…向き…逆や」

グリーン「ごめん…メガネ…忘れた…」

K「…ごめん…」

グリーン「だから…はあはあ…いうた…やん」

B「てかそもそも人数たりてくないですか?」

レッド「…ツブルーはッ!ブルーはあああ!」

A「あつ…ごめんなさい」

グリーン「宮川小輔に憧れて世界中のお祭りにッ!」

B「意味がわからなすぎる…」

C 「あつ！宮川小輔のはっぴ！青色やわ！！」

A B C 『あー…』

B 「…つてならんならん！無理ありすぎ！！」

A 「イエローさんは？」

ピンク 「イエローはツイエローはああ！！」

B 「もう何言われても驚かんで」

レッド 「…イエローはカレーの修行でインド行っただま帰ってきてへんッ！！」

B 「想像の右斜め上いったわ…」

C 「あかん変なんしかおらん…」

D 「ぐすつイエローさんっ！ブルーさんっ！」

B 「何目線やねん…」

A 「…」

急に宅配のアレの歌が聞こえてくる。
子分ではけ変わる

C 「え、なに？」

子分₂ 「(リズムを刻みながら登場)ドレミ♪ピザです！お待たせしましたああ！！」

子分₂ 「(江戸っ子感出しながら登場)お待たせしやしたああ！金のさらでえす！」

C 「え、出前？」

レッド 「きたあ待つとつたでえ！」

子分₂ 「レッドさん！！遅くなってすみません！！」

子分₂ 「グリーンさん！いつもお勤めご苦勞様ですっ！」

グリーン 「おう」

D 「え、お勤めつてずっと家おるんちゃうん？」

子分₂ 「おうおうおう誰や貴様ら我らが隊長になに失礼なことぬかしとんねん」

子分₂ 「とんねんとんねん」

C 「す、すいません」

D 「ごめんなさい」

子分₂ 「今日は隊長たちの御膳だからな、許してやろう」

子分^㉔「やろうやろう」

B「あ、ありがとうございます…？」

Dを後ろに引く

子分たち、レッドとグリーンに宅配物を渡す

子分^㉔「グリーン隊長！今日の寿司はわさび爆盛りです！

子分^㉔「レッド隊長！今日のピッツアはトマト爆盛りですよ！

レッド「うむ、ご苦労であつた！

子分^㉔「失礼シャス！

子分^㉔「またのご利用お待ちしておりますっ！

子分たち去る

A「あの子分つてデリバリーモーターズの…？」

グリーン「そう！親玉の後ろひつついてた子達、解散してかも会う機会があつて懐かれたの」

C「へ、へえ」

ピンク「あれから何年もたったしねえ」

レッド「まあというわけでメンバーもまともにおらんしあたしらはむり、他あたつて」

B「津軽すりより攻撃や！」

D「そんなこと言わんと助けてくださいよう、ヒーローなんですよ」

レッド「もうヒーローはやめた…！」

レッド去る

グリーン「…君らの言いたいことはわかった…でも私らには何もない、若さも人望も…あの頃とはもう違うねん…悪いけど、他当たつて」
A「…すみません」

「去るピンク追う」

グリーン「レッド、」
レッド「帰った？」
グリーン「おん」
レッド「そっか…」
グリーン「レッド」
レッド「なに？」
グリーン「いや…その…」
レッド「いいよわかってるから…あたしら、ダメダメやなあ…」
グリーン「うん…」
レッド「ピンクは？」
グリーン「送りに行った」
レッド「…そう」
グリーン「ピンクはすごいなあこの店も儲かってんねんやろ？」
レッド「らしいな…」
グリーン「…」
レッド「何年たったっけ」
グリーン「え？」
レッド「ヒーローやめてあいつら去ってから」
グリーン「ブルーとイエロー？」
レッド「うん…」
グリーン「抜けてすぐは連絡あったけど最近は…」
レッド「連絡こないしな…」
グリーン「…レッド」
レッド「私だって抜け出したって、変わらなアカんってわかってる、でも…」
グリーン「…うん、大丈夫、付き合うよ」
レッド「…ごめん」

女子高生達、ピンクのスナックからの帰りの田舎道。
ピンクが追ってくる。

ピンク「まって！」

B「ピンクさん…すみません無神経なこと言ってしまつて…」

ピンク「いいのよ、ごめんね頼ってくれたのに…ヒーロー失格ね」

C「いえ、押しかけてすみませんでした！帰ります」

ピンク去る。A落ち込んでる

B「…いや！なにあれ、くらっ！！！」

D「うちなんか嫌なことというてもうたんなあ…」

B「気にせんときや！！」

C「でも『友情・努力・正義』って感じじゃなかったね、」

A「…」

B「あー！！また明日から仕切り直しなあ！」

C「どうしよつか……」

A「…うちらがやったらええやん」

B C D「え？」

A「ヒーローに頼るんじゃなくて、うちらもヒーローになったらええねん！」

B「どゆこと？」

A「ポイントなんかより、『友情・努力・正義』ちゃうん？」

B「うん」

D「どゆこと？」

A「やから、『友情・努力・正義』の大切さを伝えるんや…！」

B「でも、うちらがヒーローするってただのヒーローショーやんって言われるんとかやう？」

A「ええねん！そんなこと言うやつはもぐりや！」

C「ええ…？」

A「形から入ることは大事や！周年祭で高校生と大人…ヒーローに、うちらはデータなんかじゃ計られへんってこと、もつと諦め悪いところを突きつけたんねん！」

ほんでいずれはほんまもののヒーローになってみんなを助けんねん」

D 「それ、めっちゃええな!!」

C 「うん!めっちゃかっこいい!」。

B 「ええやん、ほんならうちらはさしずめ令和んジャーってとこか?」

C 「うん!」

A 「うちらがヒーローになる、それで昭和ンジャーを元気づけられたら...うちはもう一回あの昭和ンジャーの有志を見たいねん!」

高校生たち、去る。イノシシ登場

イノシシ「うんうんうん、いいねえ青春だねえ、じゃあここで...あの昭和ンジャーをもう一度!!カムバック!!20世紀!!!」

時間が巻き戻る。

シーン5 20世紀

若き日のヒーローたち。昭和ンジャーの活躍!

暴走族(地域密着型暴走族デリバリーモーターズ)出てくる

親玉「!!一般人に迷惑はかけない!!」

子分^a「2!!ヒーローが来たら逃げずに戦う!!」

子分^a「3!!文化的なもの以外で、き、る、か、ぎ、り、壊す!!」

親玉「おおのけ!貴様ら!我らがデリバリーモーターズだ!!」

悪役あばれる

正義の主題歌曲が聞こえてくる

レッド「レッドの赤は情熱の赤!!」

ブルー「ブルーの青はクールビューティの青!」

イエロー「イエローの黄はカレーの黄!」

グリーン「グリーンの緑は平和の緑!」

ピンク「ピンクの桃は愛の桃!」

レッド「人合わせて…」

『蛍光戦隊昭和ンジャー！！！！』

レッド「出たな悪党！！」

ブルー「あたしらが相手だ！」

イエロー「もう！公道で暴れるのはやめるんだ！」

グリーン「道路交通法を守れ！」

ピンク「守れない人はお仕置きよ！！ポコッ！」

親玉「くそー！見つかっちゃまえば仕方がない！皆の者、かかれー！！」

子分「やあああ！！！！」

悪役倒される

親玉「くそー！覚えてろよおお！！」

親玉、子分去る

レッド「今日も」

ブルー「この街の」

イエロー「平和と愛は」

グリーン「私ら蛍光戦隊に」

ピンク「お任せあれ！！」

歓声がきこえる

転換5→6 まだまだ20世紀

子分たち登場

子分a「くっそお！これじゃあ親玉の立場がねえじゃねえか！！」

子分b「あいつら馬鹿にしゃがって！」

Youtube で番組司会をしていたレポーター登場。街頭インタビュー。

司会者「すみません、今蛍光戦隊とデリバリーモーターズの関係についてお聞きしてるんですけど、何か知ってることありませんか？」

子分たち、目を合わせる。悪だくみ。

イノシシ「(相手がデリバリーモーターズと気づき) お、お前らは…！」

子分「おりゃああ！！！」(襲う)

イノシシ「うわああ！！！」

司会者逃げて子分追う。叫び声。反対側から親玉登場。子分たちを探している。

親玉「おい！子分！？―あいつらどこにいったんだ！？」

子分たち、イノシシを連れて登場。親玉を見つける。

子分₂「あ、親玉！マイクもつてたやつ**機械**でイノシシに変えてやりましたよお！」

子分₂「これで親玉も真の悪役になりましたね！！」

子分₂「みてください完全な怪人イノシシ男でしょう！！？」

悪役「馬鹿野郎！今すぐ元の状態に戻してこい！」

子分₂「え、機械壊しちゃいましたよ？」

悪役「馬鹿かお前ら！俺らは暴走族だぞ！？一般人を巻き込んだらだめじゃないか！！」

子分₂「す、すいません」

子分₂「申し訳ないっす、親玉あ」

親玉「くそっ！」

失意の親玉、去る

子分₂「親玉あ」

子分₂「見捨てないでくださいい」

親玉追って子分たちも去る

シーン6　まだまだ20世紀。

昭和ンジャーの秘密基地。ヒーローたち、グリーンの誕生祝いの最中。

親玉が入ってくる。

親玉「おいお前ら」

レッド「今日はグリーンの誕生日だからオフだぞ！」

イエロー「そうだぞ！！今日はオフだぞ！！」

親玉「違う今日はその話をしにきたんじゃない」

グリーン「じゃあなんだ！」

親玉「…すまない、子分たちが一般人をイノシシに変えてしまった、」

レッド「何馬鹿なこと言ってるんだよ！！そんなことできるわけないだろ！！」

悪役「しかも機械を壊してしまったからもう戻すことができない…俺は責任をとってデリバリーモーターズを引退する…申し訳ない…」

親玉去る。悪役だが誠実な後ろ姿をみつめるブルー（何かが生まれる？）

イエロー「…ほんまなんか」

レッド「そんなこと、できるわけないやんか！」

グリーン「そうやって！！人間をイノシシに変えるなんて…」

ピンク「でも、ほんとやったら…」

イノシシ「俺イノシシになってもったあああ！！」

イノシシ上で叫びイナズマが鳴り響く！

突然、ブルーが走り去る

ピンク「ブルー？！」

転換6→7 まだまだまだ20世紀、続く

外は雨が降っている

親玉走って出てくる転ぶ

親玉泣き崩れる

親玉「うわーん！子分のバカア！一般人に迷惑をかけるなってあれ程言っておいたのにいい！俺はもうおしまいだああ！」

ブルー出てくる。手にはハンカチ

ブルー、ハンカチを親玉に手渡す。はあと♡

『赤いスイートピー』ブルー、親玉、去る

イノシシ花道に登場

イノシシ「うーん、いい話だなあ、でもこうして俺は怪人イノシシ男になったんだ…ねえ、こう見えても色々苦労してるんですよ、はっはっはっはっは、はあーあー…さてその頃、『友情・努力・勝利』を目指す」K「たちは！」

シーン7 やっと令和の現代に戻る

J Kたち、校外で主題歌ダンスの練習中

K「♪いくぜえ！かけぬけろお！ヒーローになるその時♪」

離れたところにレッド、グリーンれる

C「今いけたんちやう！」

B「ノーマスや！！やっとやあ！」

A「あたしの教え方がうまいねん！！」

B「わかったって！」

見ているグリーン、レッド

グリーン「…レッド、行こう？」

レッド「先、行つていて」

グリーン「でも…」

レッド「お願い」

グリーン「…うん」

グリーン去る。

A 「津軽の持ち物を気にして」 津軽それなんなん？」

「私も気になってた！」

D 本を出す

C 「なんなん、これ

D 「えーつとなあ、ヒーローの極意、ヒーローになるには、How to be a ヒーロー、ヒーロー今昔！図書館で借りて来てん！これでヒーローのこと勉強しよう思つてん！」

B 「津軽は変なとこまっすぐやなあ」

D 「これによるとな！ヒーローっていうのは世界を救うだけじゃないねんて！身近におる人ひとりひとりをちゃんと大切にできる人のこともヒーローって言うねんて！」

B 「へー、カッコいいな！」

D 「せやろ！これをうちの心得にせん？」

C 「ええと思う！こういうことを大切にするって当たり前やけどめっちゃかっこいいもん！」

B 「エリカは賛成やで！アカリは？」

A 「めつつちやいい！！！！これこそわたしがやるべきことや！！ほんまもののヒーローは何をするかじゃない！！どいう気持ちでおるかちゅうことやねん！！
D 「お、おう！」

レッドは去っている

帰宅時間を知らせる音楽夕焼け小焼け流れる

B 「やつべ！もう5時やん！！エリカ帰るな」

C 「私も帰るわ！」

A 「待つて！」

B 「びつくりしたあ、でかい声出すなよ！！」

C 「アカリどうしたん？」

A 「あたし、やつぱり昭和ンジャーに認めてもらいたいねん、昭和ンジャーにはなられへんけど私らなりのヒーローつてのを観に来てほしい！」

みんなも同じ気持ち。JKたち去る

シーン8 ピンクのスナック

チャイム

ピンク 「はい空いてますよお…アカリちゃん！？来てくれてありがとう！さ、どうぞ！

A 「こ、こんにちは」

レッド去ろうとする

C 「待つてください！話だけでも聞いてください！」

B D 「お願いします！」

A 「あの、私、蛍光戦隊のことが大好きです！私ヒーローって輝いてるもんやって思ってたて、でもそうじゃないですよ、大切なんって輝いてることじゃないなって思ってた…デリバリーモーターズのお二人のこと気にかけてあげて皆さんは私が懂れてた時と何も変わってないんやって」

レッド「…」

レッド、グリーンと共に去る

A 「…レッドさん…」

ピンク 「ごめんね、せつかくきてくれたのに…」

B「いや、気にしないでください、私達が来たくて来たんで！」

D「そうです！アカリも気持ち伝えてスッキリしてるし、な？」

A「つあたしたちも皆さんみたいに身近におる人を大切にして幸せにできるヒーローになります！失礼します！」

レッド、グリーン出てくる。手にはケース

レッド「(ケースを差し出して)これ」

B「え？」

レッド「若いころのヒーロースーツ、ブルーとイエローのもある」

C「え？」

レッド「持ってけ！」

グリーン「…スーツ貸してあげるって」

A「えーっと…」

ピンク「あなた達が受け継いでくれるならスーツはいいよだって」

D「ツンデレ…？」

レッド「やらん！」

B「うそです！うそ！ありがたく頂戴します！」

レッド「…おう」

グリーン「なんか困ったことあったらいつでも来いよベイビーだって」

レッド「ベイビーは言ってない！」

ピンク「他は言ったんだ笑」

レッド「あっ！」

みんな笑う

レッド「まあがんばれよ」

A「はい！記念祭、見に来てください！」

グリーン「いやあ、それは

ピンク「行くわね！」

レッド「あたしはいかない」

レッド椅子に座る

ピンク「あんなこといつてるけどうれしいのよ、ありがとう」

A「わかってます笑」

ピンク「私も諦めてた…、もうヒーローにはなれないって…アカリちゃんの気持ち聞いて勇気付けられたわ！ほんとにありがとう」
A「いえ、そんな！こちらこそありがとうございました！周年祭成功させてみせます！」

JKたち去る

ピンク「若いつてステキやな…」

グリーン「…あんな時期もあつたなあ」

レッド「あたしらも戻れるんかな…」

転換 花道にイノシシ登場

イノシシ「諦めていた大人が高校生に救われる…いやあいねえ！なんだか周年祭うまく行きそうになってきたなあ、よかった、よかったみんなはウキウキしてるけど、なんだか浮かない顔のやつもいるぜ」

シーン9 Bの家 母が待ちかまえている

母「おかえり」

B「ただいま」

母「あんた、遅なりすぎとちやう？」

B「まだ5:15やん…」

母「あと、担任の氷山先生に聞いたけど、第一志望東京にデザインの勉強しに行きたいんやって？お母さん聞いてないで！」

B「お父さんには話した！！」

母「そんな聞いてない！安定性のない職業なんかお母さん許しませんからね！

B「言うたっってお母さんどうせ賛成してくれへんやんか！」

母「そんな当たり前やろ！」

B、去りかける

母「エリカ！」

B「周年祭の準備で疲れてんねん！今度にして！」

母「待ちなさい！周年祭、なんとかポートフォリオのポイントなるんかもしれないけど…」B「ええやん！ポイントたまったらその方がお母さんも嬉しいやろ？！」

母「そうじゃなくて！先のことちゃんと考えって言うてんねん！！そんな周年祭なんかせんでも、英検のやつとかボランティアとかもっと別なことしたらどうやの！！」

B「うるさい！！エリカやってちゃんと考えてる！エリカは昭和ンジャーになるねん！」

母「はあ！！؟؟？」

エリカ去る

母「エリカ！！まだ話し終わってへんで！！！！エリカ！！！！」

追って母も去る

シーン10 カレイイス女学院内

JKたちは周年祭の構成を考え中。

D「でな、ここでエリカがくさやを持って登場すんねん。」

C「くさやー！！それ、めつつちやいいと思う！！」

A「…てか、津軽いつ来たん？」

D「え、さっきー」

C「授業は！？」

D「出てない！」

A「何してんねん！！怒」

C「…エリちゃん、遅いねえ」

D「ほんまや。学校はちゃんと来なあかんで」

A「おまえがいうなーーーー！！」

B 入ってくる

A 「あ！エリカ！」

B 無視して座る

D 「もうー！遅いやん！！なにしてたんー？」

B 「別に」

A 「今な！構成考えててん！！エリカにくさや持って踊ってもらおう思ってたんだけど、どうかな！？」

B 「は？」

C 「様子に気づいて」 エリちゃんまたお家でなんかあったん？」

B 「うるさいねん！ほつといて！！」

C 「ごめん」

D 「エリカそんな言い方ないやん、シズカ心配してんねんで？」

C 「津軽ちゃん、大丈夫やから」

D 「でもお」

B 「うるさいっ！もうほつといて！」

A 「エリカどうしたん？なんかあったん？」

B 「なんもない！」

D 「そんなわけないやん！話してや！！」

B 「話したって…話したってどうせなんも、誰もわかってくれへんねん！！」

D 「声に出さな余計わかるわけないやんか！！」

B 「声に出してもお母さんなんもわかってくれへんかった！！」

C 「えりちゃん…」

C が近づこうとするが止めるB

B 「やめて！！シズカにエリカの気持ちなんかわかるわけない！」

C 「…」

B「ごめん…帰るわ」

B ダッシュ(エリカ走り去る)

A「エリカ!!! (追う)」

D「待ってや!!! シズカもいくで!!!」

C「う、うん」

Bを追って走り去るJKたち

シーン11 田舎道の道端。

B走ってくる。と、学校に行こうとしている母と出会う。(父も一緒) ↓B逃げようとする

母「エリカ! 待ちなさい!」

B「…何?」

母「これから校長話に行くからついといで」

B「え」

母「…転校するで」

B追いかけて走ってくるJKたち

D「あ! エリカ!!!」

B「なんで!? なんで勝手にきめるん」

母「勉強もまともにできてへんのに何が周年記念祭や! 親バカにすんのもいいかげんにし!!!」

父「お母さん…」

B「…」

母「もう我慢できひん、こんな田舎おるからあかんねん!!! 市内に引っ越すで!!!」

B「いやや!」

父「お母さん、それは…」

母「お父さんはだまって！こんなところからデザインなんて言い出すねん！勉強できひんねやったら、環境変えるしかないやろ！」
父「…」

母「行くわよ！校長に話に行く！」

D「待ってください」

母「…どちらさんですか？」

D「エリカさんの友人の津軽、津軽マリーアントワネットです！」

母「はっ！そんな名前の子とうちの子はつきあえませんね、どきなさい」

D「どきません！」

母「どきなさいっ！」

D「どきません！！次のテスト、エリカさん全教科90以上とれるようウチが勉強教えます。」

母「はあ？」

D「とれなかったら、どうぞどこへでも連れてってください」

B「ちよっと！」

母「そんなもの信用できるわけがないでしょう！」

C「エリちゃんのおばちゃん！私たち身近におる人を大切にして幸せにできるヒーローになりたいんです！どうかお願いします！」

父「お母さん…一回くらい信じてやったどうや」

母「…」

A C D「お願いします！！」

B「お母さん、エリカ頑張るから、勉強も周年記念祭もどっちも頑張るから…お母さんお願いします！」

J K 一同、頭下げる

無言で母去る

B「お母さん！」

父「お母さん待ってえ！」

母を追って父去る

C「エリちゃん」

B「シズカ、」

C「こつからやで！…認めてもらわなあかんやん」

B「認めてもらう、認めてもらうしかない！」

A「でもどうする？うちらゝ人しかおらんやん、一人足らんで」

D「パトリックおるやん！」

B「いや、パトリック人ちゃうやん！」

D「しっ！もう！聞こえちゃうやろ！！」

C「…はあ、もうゝ人でやるしかないんちゃう？」

B「え、でもバランスクソ悪いで」

C「でも人おらんねやったらしゃあなくない？」

A「せつかくゝ人分あるしなあ…どうせなら完璧な状態で見て欲しいよなあ…」

JK「うーん…」

そこへ氷山先生が通りかかる

氷山「あんたらあ、おつかれさん！もう帰るん？こんなところおったんや…なんか困ったことあったらいつでもいうんよお」

JK『…ああー！！！！（5人目——！！）』

音楽

今困ってます、助けてくださいのJK

氷山しぶしぶ承知 練習

エリカとシズカの帰り道

子分たちの働くすがた

ダンスの練習

ダンスの練習校長に教えてもらう（なんで知ってるの？）

ダンスの練習レッドたちが見守る

B、決心して母に電話する

B「もしもし、お母さん？エリカ、周年祭頑張ってるから見に来てな、待ってるから」

シーン12 ピンクのスナック

ピンク「ほんまに行かんのん！？」

レッド「行かんったら行かん！！」

ピンク「もー！意地張りすぎ！！グリーンも行かんの！？」

グリーン「うーん…レッドおらんやったらおるわ」

ピンク「先！！行つとくからな！！」

ピンク去る

グリーン「…はあ、」

レッド「行きたいんやったらいけや！！」

レッド店の裏へ去る

突然警報ブザーが鳴り響く

グリーン「レッド！！」

レッド「なんや！私行かんからな！！」

グリーン「ちやうって！！いいからはよ来て！」

レッド「もう、なんやね…」

司令塔（声）「デリバリーモーターズ目撃情報繰り返しデリバリーモーターズ目撃情報。今日未明、デリバリーモーターズをカレイイス女学院周辺で確認した。近くに
いるヒーローは現場に急行するように。繰り返し…」

レッド「え？ あいつら解散したやん！」

グリーン「おん、そのはずなんやけど…」

子分a「（リズムを刻みながら登場）ドレミ♪ピザです！お待たせしましたああ！！」

子分b「（江戸っ子感出しながら登場）お待たせしやしたああ！金のさらでえす」

レッド「お前ら、周年祭ぶち壊そうとしてるってほんまか！！？」

子分^a「え！そんなこと考えてもないっすよ！」

子分^b「はい！ワタシら解散してから悪さしてないっす！」

子分^a「そうっす！！レッドさんとグリーンさんに拾ってもらって、裏切るなんてことしてないっす！！！」

子分『信じてください！！』

グリーン「え、じゃあ高校にむかつてるのって…」

レッド「いくで！！」

子分^a「ういっす！！（ついでいこうとする）」

レッド「（止めて）あ！お前らは誤解されるとあれやからここおれ！帰ってくるまで絶対出るなよ！！舞台転換でもしてろ！」

子分^a「ええ！転換！？ふたりじゃむりいいい」

イノシシ「さあ！いよいよカレライス女学院の周年記念祭の開催だあ！しかしカレライス女学院を狙う悪の目撃情報が…どうなるカレライス女学院の周年記念祭！！！」

転換 カレライス女学院56周年記念祭日 JKの本番

主題歌を踊るJK

台上にデリバリーマーターズを模したモブが現れる。レッド、グリーンが倒してはける

シーン13 カレライス女学院周年祭日 本番終了！

D「終わったああ！！！」

C「疲れたなあ」

B「大盛況やったやん！！でも、ほんま疲れたあ」

A「ほんまに！誰や！ヒーローやろう言うたやつ！！」

『おまえや！！』

A「ほんまや」

C「エリちゃん、今日お母さん来てくれてんの？」

B「わからへん…」

氷山「（へとへとに疲れてよぼよぼ） あんたらお疲れー！！」

A「あ！先生！！ほんまにありがとうございます！」

氷山「ほんまにつかれたわー、あ、あの台上のところサプライズ？」

C「先生、台上ってなんですか？」

氷山「ほら、赤と緑の人かしら、悪役みたいなもの倒してたのじゃない！！あんな練習のときあった？…まあええか！あ、冷凍庫にバナナ入れてあるから後でみんなで食べな、今日は本当にお疲れ様！はああ」

氷山去る

D「あいかわらずバナナやな…」

A「じゃなくて！！そんな演出不いやん！！うちらだけのはずやろ？出てるん！」

C「赤と緑ってそれレッドさんとグリーンさんちゃうん！？」

B「アカリ！！いこ！！」

A「いや、」

C「ほら！早く！」

JK三人去る

Dだけ、物音がした逆方向に去る

転換

シーン14 カレイリス女学院周年祭日 続き

パトカーのサイレン鳴る遠くなる 見送るレッドとグリーン

B「（登場して） レッドさん！！グリーンさん！！」
レッド「げ！！！」

C「あのパトカー何ですか！？」

グリーン「あれはー」

ピンク「（登場して） 周年祭を壊しに来よった奴ら」

A「え!？」

グリーン「ピンク!？」

レッド「なんでウチらやってわかったん?!」

ピンク「わかるわ!あほ!」

C「もしかして、デリバリーモーターズさんですか!？」

レッド「ちやうちやうあいっらいまスナックおるから」

B「え、じゃあ」

グリーン「他校の生徒、デリバリーモーターズに成りすましてたらしい」

A「…助けてくれたんですか?」

レッド「あ、あたしらは何もしてない!」

ピンク「そんな事言わないの!歳の割には動けてたやん」

グリーン「一番焦ってたんレッドやし」

レッド「グリーン??!!」

グリーン「ごめんごめん笑笑」

みんな笑う

A「レッドさんもグリーンさん、ううんやつぱり蛍光戦隊はいつまでも憧れのヒーローです!本当にありがとうございました!」

JK「ありがとうございます」

父と母がやってくる

母「ほんまに、子分たちじゃないのね!!」

父「やから違うってば!!あいっらにそんな度胸ないわ!!」

B「お母さん?来てくれたん!」

母「エリカ!?あんた大丈夫やったん??!」

B「え?」

母「お母さんデリバリーモーターズみたいなん出てきてめっちゃびっくりしてんから!よかったあ、怪我不い?大丈夫?」

レッド「(母を見て)…ブルー?」

母「え？」

グリーン「やっぱり！！ブルーや！！」

母「え、レッド！？何で……、どちらさんですか？」

レッド「いや遅いわ！反応してもうてるやんけ！」

ピンク「ちよつと黙つとき！！」

B「お母さん？」

母「ごめん、エリカ黙ってて…、お母さんエリカくらの時みんなでヒーローやって…ブルーやってん…。やから、エリカを見てたら昔の自分のように思えて…昔は後先考えずに突っ走ってて、だからエリカにはもつと今後の事を考えて欲しくて…キツイ言い方してたよね、嫌われてもしかたない思ってる…こんなお母さんで本当にごめん」

B「お母さん…、エリカお母さんのこと嫌ってへんで？…お母さんいつもめっちゃエリカのこと心配してくれるやん、愛されてんねんなあって思うもんもうちよつと自由にさして欲しいとは思っけど…。でもなエリカ生半可な気持ちでデザインやりたい言うてるんとちゃうねんで？このスーツもなエリカがリメイクしてん。エリカ、…（居住まいを正して）わたし、本気やねん、やからお母さん、応援してください」

母「…うん、エリカお母さん応援する。応援させて欲しい。」

そつと寄り添う父。三大家族のいい風景。

レッド「（気づいて）ん？」

グリーン「んー？」

ピンク「んー？？」

父、顔を隠す

レッド「やっぱ親玉やん！！！！」

グリーン「なにしてんの！こんなところで！」

父「ブルーと結婚しまして…はい」

ピンク「王道ラブストーリーやああ！！！！！！」

レッド「言うてやあ！！」

グリーン「ほんまやで！！水臭いわ！」

ブルー「え、怒らんの？」

ピンク「怒らんよぉー！おめでどう！」

ブルー「あ、ありがとう」

レッド「え！じゃあお前、宮川大輔、嘘！？」

ブルー「う、うん、ごめん笑」

大人たち笑う。若いころにもどったみたいに。
おばちゃんパワー全開。

B「なんか今日のお母さん新鮮」

C「ほんまによかったな…」

B「ほんまにありがとう！シズカにもアカリにも津軽にもいっぱい助けられたわ……あれ？津軽どこいった？」

A「何言うてん！私の横おるやん……おらん…」

D（声のみ）「みんなあーイノシシおったああー！！」

D、校長、イノシシ登場

D「校長！猪鍋ですか！丸焼きですか！」

校長「あほ！食べへんわ！！」

D「えー！」

校長がレッドたちの方へ歩み寄る

校長「みんな！久しぶり！！！」

レッド「え、イエロー！？」

ピンク「全員集合やん！！！！」

グリーン「まって、じゃあカレー修行も嘘なん？！」

イエロー「それはほんととお！インドから帰ってきてん！」

グリーン「なんやねん！」

イエロー「久しぶりやな、親玉」

父「お久しぶりです…」

レッド「え！急なシリアス…」

イエロー「機械、完成したそうやな」

父「はい、いつでも戻せます！」

母「え？ずっと、作ってたん？」

父「うん、ごめん内緒にしてて」

イエロー「じゃあこのイノシシを…」

D「（イノシシと会話中）ほんほん、ほん、え！あ、なるほどねえ！！あんなあ、《わしはこれからのこの学校の守り神のしとくねん！やからイノシシのままがいいねん！》やって！！」

イノシシ手を振り去る

イエロー「じゃ、じゃあ、僕は仕事あるから行くな！」

レッド「までこら、逃さへんぞ説明せえ！」

グリーン「そーや！人でなんでもやろうとして！！」

ピンク「じゃあ久々にスナックに全員集合ね！！」

♪行くぜえ！駆け抜けるおお♪と**元氣**に去っていく

レッド「ブルーも親玉も！！早よ行くで！」

グリーン「そーや！！子分たちも、待ってんで！！」

父「え？！」

ブルー「え？ありがとう…！エリカ！今日留守番しといてー！

大人ヒーロー組、全員去る。残るのはJKたち

C「なんか、まるうく収まったんかな？」

A「元氣やなあ

B「でも明日から学校やで！！」

A「津軽、学校けえーへんの？」

C 「あたしら、おるで？」

D 「んー！イノシシ捕まえたし、行こっかな？」

A 「まじか！！明日は槍が降るぞおお！！」

B 「いや、槍が降ったら誰も行かれへんやろ！！」

A 「ほんまや！！」

D 「あほやあ！！」

ピコン、とCのスマホがニュース速報を知らせる。何気なく見たCは驚く

C 「なあ！これみて！！？」

D 「なにー？」

C 「ほら！」

B 「× JAPANフーポートフォトリオ情報流出…え？！」

C 「(ネットニュースを読む)『今年度から入試内申点で使われる× JAPANフーポートフォトリオのデータの不正流出が発覚した。文科省はこれに対し、「大変遺憾」システムの中止もやむを得ない』と発表した』」。

B 「やっぱり流出してるやん！」

D 「なくなんねや！まあでもポイントなんかわからんもんより、大事なんは目の前にある熱い気持ちっっちゃうこっちゃな！！！」

B 「津軽！ええこと言うなあ！」

D 「ありがとう！まあポイントためまくってたあかりには気の毒やけどな」

C 「ほんまに」

A 「そんなもなくなかったって、私はもともと余裕や！」

B 「あんた、ほんまにヒーローやりたいがために企画参加してんなあ…」

A 「バレた？」

J Kたち笑う

イノシシ出てきJKたちに手を振る

D 「あ、イノシシや！！」

イノシシ去る

D 「バイバイ！」

j k 「バイバイ！！」

暗転 エンディング

A 「レッドの赤はヒーローの赤！」

B 「ブルーの青は青春の青」

D 「イエローの黄は希望の黄！」

C 「ピンクの桃は恋の桃！」

冰山 「グリーンの緑は三十路の緑！」

A 「5人合わせて

JK+冰山 「蛍光戦隊令和ンジャー！！！！」

5色の光が5人を照らす

おしまい